

活動分野	地域部会（千葉中央・九十九里部会）		
タイトル	「田畑を潤した池の変遷」 袖ヶ浦公園を歩く		
実施日時	平成 29 年 9 月 24 日（日） 9 時 30 分～13 時		
実施場所	袖ヶ浦市 袖ヶ浦公園		
受講者	名	F I C 会員他スタッフ	10 名

## 活動の内容

東京湾から直線 2km 程の位置にある袖ヶ浦公園は、小櫃川流域に広がる広大な水田地帯の北縁に位置し、その北側には標高 40m ほどの台地が広がっています。江戸期から水田の貯水池として利用されていたようですが、現在では 40ha 程の市民公園として整備されています。

園内の樹木は殆どが植栽されたものですが、公園の周囲の斜面林は以前の自然を色濃く残しており、シ

イ、カシ等の常緑広葉樹とコナラを主体とした落葉広葉樹のそれぞれ立派な大樹から成り立っています。1880 年代初頭の地図によると台地上は松林が主体だったようですが、マツだけでなく広葉樹類も一定程度自生していたと思われます。

公園内は神池、下池の二つの池を巡るコースや、標高 45m ほどの丘



アキニレの翼果

（東京湾や富士山を望める展望台あり）への登りコース等も

あり、ジョギングを楽しむ人達も多く見かけました。上池を一周する約 2km のコースには、植栽でしょうが立派なアキニレの大木やヤマボウシ、トウカエデ亜種(ssp)のタイワントウカエデ、ヤマハギ等、また「放蝶ゲリラ」による人為的な放蝶によって増えた」と言われる中国原産のアカボシゴマダラなどを観察、下池を巡って展望台のある丘に上りそこで昼食、ゆったりと下ってスタート地点の駐車場で解散しました。



アカボシゴマダラ



タイワントウカエデの葉(左)と翼果(右)